

武陵祭(文化祭・体育祭)を行いました。 文責 学校長



～コロナ・熱中症に負けず見事な祭典でした～

1 文化祭が開催され、様々な「Show Time」が披露されました。

大型台風一過の後、予定どおり9月10日(土)に文化祭、11日(日)に体育祭を無事開催することができました。文化祭は予定通り文化会館で実施しました。3学年のうち2学年を参加させ、残りの1学年は学校の教室で生配信を見る形での参加としました。様々な制限の中ではありますが、どの演目も展示もクオリティが高く、生徒会役員・放送部による進行も見事でした。午前の部では、2年生の武雄市紹介ビデオ映像、3年生のステージ発表、有志のメンバーによるパフォーマンスが行われました。昼休みは学校に戻り、美術部・書道部・写真部・茶道部・科学部・家庭クラブ等の展示に加え、1年生のクラス展示(北海道の紹介)・2年生のクラス展示を観覧し、またPTAのご協力により、カレー・唐揚げ等の販売も行われました。午後の部は再び文化会館で文化部の発表があり、どれも格調の高い展示・舞台でした。



【2年生ビデオ映像】

【3年生ステージパフォーマンス】



【手話による歌唱】

【ダンス】

【ガールズダンス】

【弾き語り】



【1年クラス展示】

【2年クラス展示】

【美術部展示】

【写真部展示】

【科学部展示】

【家庭クラブ展示】



【PTAの販売】

【茶道部の映像発表】

【放送部の映像発表】

【書道部の展示とパフォーマンス】

【吹奏楽部の演奏】

2 秋晴れの下、体育祭も無事開催することができました。

翌日(11日)の体育祭も、マスクを着用し、騎馬戦やフォークダンスも昨年と同様に接触をしない新しいスタイルに内容を変えての実施となりました。衣装は白団、パネルは青団、応援合戦は白団、そして総合優勝は青団がそれぞれ獲得しました。残念ながら、コロナ感染で参加できなかった生徒も出ましたが、各団とも見事な甲乙付けがたい見事な出来栄でした。生徒会、運営に関わった実行委員、応援リーダーの諸君、この経験を今後活かしてください。



3 今週の名言・今週の話成語は紙面の都合で次週に持ち越します。

4 入試によく出る漢字(その47)・・・センターテスト(1993年度本・追試験)に挑戦!

【本試験】	(1) 「あいまいだからよい」というサイたるものは、	〔才・再・際・最・牽〕
	(2) 言語のコンゲン的性格を見失う結果に	〔現・玄・言・限・源〕
	(3) 区切りをつけることがヨウセイされ、	〔要・容・養・用・擁〕
	(4) よりテキセツな言葉を探している暇も	〔接・切・切・節・撰〕
	(5) どうして、ヒガの距離を測れよう。	〔比・否・非・彼・秘〕
【追試験】	(1) 人間のコウオの対象となる性質のことで	〔考・好・交・向・肯〕
	(2) 個人的セイコウや好みの域を超えて、	〔成・性・正・精・盛〕
	(3) さまざまな意味をもつことをソウキされたい。	〔気・記・企・期・起〕
	(4) カッコたるアイデンティティをもつた	〔弧・孤・己・固・個〕
	(5) ゴカン的・相互依存的にしか決まらないのが	〔換・間・感・完・観〕

5 今週の一冊・・・伊集院静の『ミチクサ先生』(上巻) (講談社) です。

ミチクサが多いほうが、人生は面白い! てっぺんには裏から登って、足を滑らせたっていい。あちこちぶつかったほうが道は拓ける。夏目家の「恥かきっ子」金之助は生まれてすぐに里子に出されたり、年老いた父親にガラクタ扱いされながらも、道楽者の祖父の影響で子供ながらに寄席や芝居小屋に入り浸る。学校では異例の飛び級で頭角をあらわし、心のおもむくままにミチクサをして学校を転々とするように。その才能に気付いた兄に英語を仕込まれ、東京大学予備門に一番で合格した金之助は、そこで生涯の友となる正岡子規と運命の出逢いを果たす――。伊集院静がずっと共鳴し、いつか書きたかった夏目“漱石”金之助の青春。「日経新聞」大人気連載、待望の書籍化! (参考: 本書裏表紙説明より)



【解説】私の好きな作家の一人、伊集院静氏の新作「ミチクサ先生」を本校図書館に入れてもらいましたので、早速借りて読んでみました。今回は、その上巻の紹介です。若かりし頃の夏目漱石、まだ夏目金之助と称していた青年期の青春物語です。寄席や芝居小屋に「ミチクサ」することが好きな金之助少年が、やがて東京大学の予備門に合格したことがきっかけで、生涯の友となる正岡子規と出会い、文学の世界へと魅かれていく過程が丁寧に描かれていきます。高浜虚子や河東碧梧道、森鷗外、樋口一葉、尾崎紅葉などやがて当時の文壇に頭角を表すことになっていく人々と二人の関わりも描かれており、明治文学好きの人にはたまらない一冊と言えるでしょう。子規の野球好きな姿もしっかり描いている点は、やはり伊集院静にしか書けない世界観といえます。

【作者・伊集院静について】1950年山口県防府市生まれ。1972年立教大学文学部卒業。1981年短編小説「皐月」でデビュー。91年『乳房』で第12回吉川英治文学新人賞、92年『受け月』で第107回直木賞、94年『機関車先生』で第7回柴田錬三郎賞、2002年『ごろごろ』で第36回吉川英治文学賞、14年『ノボさん 小説正岡子規と夏目漱石』で第18回司馬遼太郎賞を受賞。16年紫綬褒章を受章。(参考: 本書表紙裏の著者紹介文より)

6 世界遺産を巡る・・・第72回はギョレメ国立公園とカッパドキアの岩窟群(トルコ) (登録: 1985年)

【解説】トルコの首都アンカラの南東約280 km、標高1000 mを超える高原地帯にあるカッパドキアでは奇岩群がなんとも不思議な景観を創りだしています。ここは「ギョレメ国立公園とカッパドキアの岩窟群」として世界遺産に登録されています。カッパドキアにこのような独特な風景が誕生したのは、有史以前のことです。カッパドキアの東にあるエルジェス山と南西のハサン山で、300年前、大噴火が起きました。どちらも3000 mを超える山です。その際、火山灰と溶岩が大量に堆積し、凝灰岩や玄武岩などの地層が形成されました。その後、柔らかい凝灰岩が風雨によって浸食された結果、固い溶岩を頂く様々な形の奇岩の林が出来上がりました。7～13世紀のギョレメ渓谷は、キリスト教徒の一大シェルターの観を呈していました。この時期、ビザンティン帝国による偶像破壊やイスラム教によるキリスト教徒迫害などを逃れ、渓谷に隠れ住むキリスト教徒たちが急増しました。先住者が使った洞窟を掘り広げたり、新たな洞窟を掘ったりして聖堂や修道院を造り、信仰を守ったのです。いずれも聖堂の入り口は他の岩山と見分けにくく造られた。事実、ギョレメとは「見てはいけないもの」を意味しています。しかし、そうした簡素な外観とは裏腹に、聖堂内部は華麗な色彩を使った聖像画で飾られています。(参考: 「世界遺産人気ランキング」より)



7 街角グルメを訪ねて・・・第72回は佐賀市の「小籠包茶楼 龍哉」です。

コロナ禍の中、今年4月にオープンした「小籠包(ショーロンポー)茶楼 龍哉 佐賀神野店」です。お店は、神野公園近くにあり。女性が気軽にお茶を楽しめることをコンセプトに、気軽に小籠包を楽しむことのできるお店です。店主の川久保和哉さんは佐賀市出身。独立を目指して上京し、25歳から東京の中華料理店や料亭で修業を積み、台湾での名店「京鼎小館」「京鼎樓」で技術を習得し、台湾発のショーロンポー専門店「京鼎樓(ジンディンロウ)恵比寿本店」で料理長を務めた後、35歳で独立。2011年、東京中目黒に「小籠包茶楼」をオープン。今回佐賀に出店を決めたきっかけは新型コロナウイルス感染症。いずれ地方へ展開をと考えていたが、緊急事態宣言などによる時短要請により都内店舗でのディナー営業に大きな影響を受けたことから、都心よりは影響が小さい地方への出店として、出身地の佐賀で店を開くことを決めたという。席数は、テーブル席、カウンター席合わせて24席。メニューは、ショーロンポー3個がメインのセットメニューを提供。「坦々麺」「ワンタン麺」などをセットする「選べる麺セット」(1,050円～)、「海老炒飯(えびチャーハン)」か「肉高菜炒飯」をセットする「選べる飯セット」(1,050円)、麺と飯のそれぞれをハーフサイズでセットする「半々セット」(1,150円～)、「たっぷりヘルシー蒸し野菜」に加え麺か飯のハーフサイズをセットする「まんぞくセット」(1,400円)があります。全てのセットメニューに杏仁豆腐、ソフトドリンク、白ごはんが付き。この日は「坦々麺」の「麺セット」と「海老炒飯」の「飯セット」を注文。「杏仁豆腐」が付いてくるのはポイント高いです。住所は、佐賀市神園3丁目2-3です。



8 保護者の皆様へ・・・「武陵祭」が「ケーブルワン(Cable One)」で放送されます。

武陵祭が今後、番組として「ケーブルワン」で放映される予定です。放送予定は番組表でご確認ください。

【正解】【本試験】(1) 最たる (2) 根源 (3) 要請 (4) 適切 (5) 彼我
【追試験】(1) 好悪 (2) 性向 (3) 想起 (4) 確固 (5) 互換